

第1学年 音楽科学習指導案

日時 平成20年10月17日(金)5校時
学級 1年A組 (男子13名 女子11名 計24名)
授業者 小原 茂

- 1 題材名 郷土の音楽に親しもう
- 2 教材 沢内甚句

(1) 教材観

本題材は中学校学習指導要領、第1学年の表現の内容(1)イ・キにより、多様な音楽表現の豊かさや美しさを感じ取り、基礎的な表現の技能を身につけ、創意工夫して表現する能力を育てること、すなわち、生徒が我が国や世界の諸民族の音楽文化について関心を持ち、多様な音楽に対して、よさや美しさを感じ取ることのできる能力を育てることを主なねらいとしている。そのためには、我が国の伝統的な音楽のいくつかを比較してみたり、郷土の民謡に親しんだりすることが必要であると考えられる。

本教材では、郷土の民謡「沢内甚句」を使った表現活動を行うことで、その表現の豊かさや民謡の味を感じ取る能力を育てることをねらいとしている。

(2) 生徒観

素直で明るい生徒たちであるが、温和な生徒が多く、意欲を前面に出して学習するような生徒は少ない。そのため、表現全体(特に歌唱表現)を苦手とする生徒も多く、表現活動に対する取り組み方はやや消極的である。また、小学校時代に、活動の中で郷土の音楽に触れる経験をしてきた生徒が何名かいるものの、日常的に郷土の民謡に親しむ機会は多くなく、正調「沢内甚句」を知らない生徒も多い。しかし、民謡の宝庫とも呼べるこの地に生まれ育った生徒たちは、都市部の生徒と比較して、様々な民謡を自然に耳にすることが多く、抵抗感は少ないと思われる。

(3) 指導観

郷土の音楽は時代の推移と生活の変化により、地域によっては衰退傾向にある。だからこそ、庶民の生活の中に生き続けてきた祖先の遺産としての民謡や郷土芸能の音楽的特徴を捉えさせ、また、地域の中でどのように伝承されてきているのかという点にも視点を当て、関心を持たせたい。さらに正調「沢内甚句」の第一人者である高橋正慶さんの生の歌による本物の民謡に触れさせることにより、西洋音楽との違いに気づかせ、学習形態を工夫したり、グループごとの表現活動をする中で、民謡のよさや味わいを感じ取らせたい。

(4) キャリア教育との関わり

学習カードを使いながら、正調「沢内甚句」独特の歌い方(言葉の伸ばしや明瞭な発音など)、節回し、個性あふれる歌い方(地声に近い発声や強弱の変化など)に視点を与えて感じ取らせる。そして、グループ(4グループ)ごとに、どのように表現するかを話し合わせ、練習し、発表しあうことで、人間関係形成能力の中のコミュニケーション能力育成や意志決定能力の中の課題解決能力の育成を図りたい。

3 学習指導目標

【関心・意欲・態度】

郷土の民謡の特徴や発声の多様性に関心を持ち、曲にふさわしい発声で意欲的に歌唱表現する。

【表現の工夫】

郷土の民謡の特徴や発声の多様性を感じ取り、曲にふさわしい発声により歌唱表現を工夫する。

【表現の技能】

郷土の民謡の特徴や発声の多様性に気をつけ、曲にふさわしい発声により歌唱表現する。

4 指導計画（総時間数2時間 本時2/2）

時数	学習内容	具体の評価規準		
		関心・意欲・態度	表現の工夫	表現の技能
1	<ul style="list-style-type: none"> 外国の民謡や沢内甚句を聴き、比較する。 民謡や日本の伝統音楽の特徴を理解する。 沢内甚句の節を覚える 	郷土の民謡の特徴や発声の多様性に関心を持っている。	郷土の民謡の特徴や発声の多様性を感じ取っている。	
2 (本時)	<ul style="list-style-type: none"> 正調「沢内甚句」の歌い方の特徴をつかむ。 正調「沢内甚句」の独特な歌い方を生かして歌ってみる。 	郷土の民謡にふさわしい発声で歌唱表現することに意欲的である。	郷土の民謡にふさわしい発声による歌唱表現を工夫している。	郷土の民謡の特徴をとらえ、曲にふさわしい発声による歌唱表現を身につけている。

5 本時の指導

(1) 本時の目標

- 正調「沢内甚句」の歌い方の特徴をつかみ、独特な歌い方にふさわしい発声で意欲的に歌唱表現することができる。
- 正調「沢内甚句」の歌い方の特徴をつかみ、独特な歌い方にふさわしい発声により歌唱表現を工夫することができる。
- 正調「沢内甚句」の歌い方の特徴をつかみ、独特な歌い方にふさわしい発声による歌唱表現を身につけることができる。

(2) 具体の評価規準

状況例 評価の観点	十分満足できる (A)			おおむね満足できる (B)		支援を要する生徒への手だて (C)
	観点1 郷土の民謡にふさわしい発声で歌唱表現することに意欲的である。	正調「沢内甚句」を基本の旋律と比較しながら聴き、活動に生かすことができる。	正調「沢内甚句」を聴き、活動に生かすことができる。			学習グループの中で周りの生徒が常に声がけをしながら活動していけるようにする。
観点2 郷土の民謡にふさわしい発声による歌唱表現を工夫している。	学習カードに具体的な特徴の記述が出来る。	学習カードに特徴が書ける。			基本的な旋律や合唱のときの声の出し方との比較から考えさせる。	
観点3 郷土の民謡の特徴をとらえ、曲にふさわしい発声による歌唱表現を身につけている。	言葉の伸ばし方や発音、節回しや発声など、いくつかの観点に着目しながら歌うことができる。	言葉の伸ばし方や発音、節回しや発声などの観点から選び、まねて歌うことができる。			地声で歌うことも良い方法であることを確認する。	

(3) 本時の展開

段階	指導内容	生徒の学習活動	留意事項(・)と評価(※)
導入 10分	1. 「沢内甚句」の特徴を思い出させ、確認させる。 2. 「沢内甚句」の基本的な旋律を歌わせる。 3. 正調「沢内甚句」をお師匠さんの生歌で聴かせ、課題を持たせる。 4. 学習課題を提示する。	1. 「沢内甚句」の特徴(旋律・音色)について想起し、確認しあう。 2. 「沢内甚句」の基本的な旋律を歌う。 3. 正調「沢内甚句」の生歌を聴き、個々に課題を持つ。 4. 学習課題をつかむ	<ul style="list-style-type: none"> ・「沢内甚句」の旋律や音色の特徴を学習カードを頼りに想起させたい。 ・楽譜に起こした旋律どおりに歌わせたい ・基本の旋律との違いや歌い方に注目させたい。
展開 30分	<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; text-align: center; margin-bottom: 10px;"> 歌い方の特徴に気をつけて 正調「沢内甚句」に挑戦しよう </div> 1. 正調「沢内甚句」の歌い方や基本の旋律との違いをグループで話し合わせる。 2. 正調「沢内甚句」の歌い方の特徴を出し合い、まとめさせる。 3. 歌い方の特徴に気をつけながらグループごとに歌う練習をさせてみる。 4. グループごとに発表させる。 5. 発表を受け、グループごとにさらに歌う練習をさせてみる。 6. 再発表させる。	1. 正調「沢内甚句」の歌い方や基本の旋律との違いをグループで話し合う。 【コミュニケーション能力】 2. 正調「沢内甚句」の歌い方の特徴を全体で話し合い、確認しあう。 3. 全体で確認した歌い方の特徴をグループごとに模倣してみる。 【コミュニケーション能力】 【課題解決能力】 4. 練習していること(はじめの部分か中間部を中心に)を全体に紹介する。 5. みんなの意見やお師匠さんの助言を生かしながら練習する。 【コミュニケーション能力】 【課題解決能力】 6. 再び全体の前で発表する。	<ul style="list-style-type: none"> ・言葉の伸ばし方や節回しだけではなく、発音や発声の違いなども考えさせたい。 ※観点1 ・グループで話し合った内容を出し合い、特徴をまとめさせながら意識付けを図りたい。 ※観点2 ・お師匠さんに質問する機会を設けたりしながら、部分的に取り組みさせたい。 ・どんな点に注目して取り組んでいるのかも発表させたい。 ・お師匠さんにも指導をお願いするなど、さらに進んだ取り組みをさせたい。 ※観点3 ・はじめの発表から変化のみられるグループを発表させたい。
終末 10分	1. 正調「沢内甚句」をお師匠さんと一緒に歌い、感想を持たせる。 2. 学習のまとめをさせる。	1. 正調「沢内甚句」をお師匠さんとともに歌い、歌ってみた感想を記入する。 2. 課題についての自己評価をする。	<ul style="list-style-type: none"> ・正調「沢内甚句」の良さを感じとらせながら歌わせたい。